

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	(有)長建寄り逢い長崎 グループホーム 夕張サザンクロス	評価実施年月日	平成20年2月10日
評価実施構成員氏名			
記録者氏名	田中 友紀子	記録年月日	平成20年2月10日

北海道保健福祉部福祉局介護保険課

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	ホーム独自の理念を作り上げ誰もが理解出来るよう説明を行っている。夕張という炭鉱の日本のエネルギー対策の期待と犠牲になった入居者過去の努力の歴史を忘れる事こと無いように、今日本人に求められる、心の優しさ、豊かさを取り戻すためにも、このグループホームにおいて高齢者への尊厳を「当ホームの介護の第一の理念」へと真剣に向き合う我々の挑戦でもある。	
2	理念の共有と日々の取組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	毎日毎時間時間を決めて、江口総括施設長の伝達ミーティングを元に会議の折りに話している。常に理念を忘れる事がないような内容を職員に伝えることを、日々の行動として行っている。なお、毎日ミーティング開催を怠ると当日のスタッフにはペナルティを与えている。	
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	ホームの運営理念や役割を開設以来平成14年より地域に分かりやすく説明を行っている。当グループホームの開所において北海道の新聞各社の取材、夕張市議会月報等にも取り上げられているために夕張では家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組まれている。	
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	江口総括施設長や、田中管理者は地元アパートに住み、またスタッフも長年夕張に住み続けている者ばかりで、近隣との付き合いはある。施設長は夕張消防団員に加入、商工会議所会員、老人会会員、夕張神社主など、常にこの町内へは十二分に世話され、またしている為に、すれ違ったりした際など挨拶を行い、近所の方々と気軽に会話できるよう努力をしている。飲み仲間も近隣にたくさんいる。	
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	自治会班長も経験し、町内の住民の葬儀などでは、中心的役割を率先して行って、地域活動に従事している。また地域の行事にはすべて参加し交流を図って、グループホームへの理解を地域との交流により、これからの高齢者地域への必要性と期待を住民よりかけられている。また夏祭りなどには地元自治会より入居者の参加を呼びかけられて一緒に飲み、踊りにも参加をさせてもらう事が、年間行事となっている。また敷地外の草むしり等にも地元老人会会長が自ら草むしり機械を使用されて整備されてもっている。	
6	事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	我々は地域の住民の方と常に付き合いがあり、挨拶の時にその方の様子、身体状況などを聞き、日々の生活の中で地域の高齢者の方々暮らしに役立つこと何かあれば申し出て下さい等ということをスタッフで話し合っている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	当然当ホームは平成14年からの開設の歴史があり、グループホームの意味・役割について厳しく自己評価をしている。毎日のミーティングや会議の中で、自己評価及び外部評価を実施する目的などの説明を行っている。		
8 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	平成18年から取り組みが介護サービスに組み込まれた事で、どのような会議が良いのかと悩んできたことはある。今更の感もある。しかしその意味を理解して努力しようとしている途中でもある。改善点があれば話し合いを行いサービス向上に向けて取り組んでいる。さらなる地域住民との理解と交流のために積極的に会議に参加を要請してもらい、さらなるグループホームの発展と功績を働きかける。		
9 市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	開設が平成14年の際は、夕張市にはグループホームがなく、市役所介護職員と一緒に暮らしてグループホームを開所した歴史があり、そのために市の職員とはいろいろな会議や討議をおこなってきた。夕張においてはこの事業のモデル的な役割をしてきた。相互理解で指導もしてきた。常に市町村と連携をとり、サービス向上に努めている。		
10 権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	当ホームは数人の入居者が制度を利用しているために、ケースなどをあげ職員に分かりやすく説明し理解してもらう機会を作っている。他にも必要な人がいるか話し合いを行っている。活用に対しても十二分に支援している。		
11 虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	講習などがあれば職員に参加してもらい学ぶ機会を作っている。が、いつも北海道は当ホームは、拘束その実体がないための理由で、講習の参加申し込みをしているが、逆に学ぶ機会を与えない。スタッフへの講義のために拘束に関する学ぶ機会を持たせることを望む。		
4. 理念を実践するための体制			
12 契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	利用者や家族等に十分に説明を行い、疑問点は理解出来るまで説明している。又、言った言わない防止のため、その説明を受けたという証明を相手方より自筆でもらうようにしている。実例を参照。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	当然何度も何度も説明する。苦情などがあれば意見を述べてもらい、苦情の内容を把握し、速やかに改善出来るよう努める。上記と同じである。		
14 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	定期的に利用者の健康状態などを、家族の訪問等又は家族からの電話等で報告しているし、年に2度は近況写真を家族へ郵送する事にしている。今後も続けたいと思っている。		
15 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	苦情などがあればノートに記録として書くことも常に電話の前に用意して意見を述べてもらい、苦情の内容を把握し、速やかに改善出来るよう努める。内容によっては「出来る事出来ない事」もはっきり言うことにしている。(社長命令でもある)		
16 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	会議などを開いたり、常日頃のスタッフとの雑談やミーティング等で、職員の意見を聞く機会を作っている。良い意見があればすぐにでも試験的に提案策を実行して、再度の判断を話し合うことにしている。		
17 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	数少ないスタッフでやりくりしている。職員の状態に合わせて勤務調整を行っている。能力によっても組み合わせを十二分にしている。		
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	異動や離職に対して利用者の不安がないように配慮している。スタッフは、この夕張での破綻した市からやもうえず、家族と共に離れざるを得ない者、交通手段の不備が、離職につながる事もあり、最小限に押さえる事が出来ない特殊事情もある。離職者には利用者には気付かれないように「去る」事を伝えている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>		
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>		
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>		
22	<p>向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>		
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>		
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	一番必要としている支援を見極め、サービスを行い他の必要な面もサポートしている。たとえばホーム内だけでのストレスを持っている人には、買い物同伴や犬などを与えてストレスが溜まらないようにしている。		
26 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	当然今更言われなくても分かりきっていることである。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	スタッフには理念においても厳しく、利用者の方一人ひとりに対して尊敬を持つことを指示してお互いの関係作りを行っている。当たり前のことである。		
28 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	当たり前、今更言われることでもない。		
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	家族構成などを把握し、よりよい支援が出来るよう最善の努力している。		
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	当たり前のこと、今更実施対策ではない。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	当たり前である。それがグループホームの基本であり、当ホームの理念でもである。今更言うべきことでない。		
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	ホームを退去されても継続的に連絡を取ったりしていない、相手方も迷惑かもしれないとの判断であり、大きなお世話と言われる。ただ利用者が亡くなり、家族が一人になられてさみしい時などは、ホームに訪ねられる家族もあり、拒否は一切しないですつでも立ち寄られる事を勧めている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	当たり前のことである。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	それがグループホームの理念であり、今更書くこともない。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	グループホームであるためには、基本的な事。その信念を常にスタッフへも厳しく指導と教育をしていることであり、介護者としては当たり前のことである。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	身体的ケアと精神的なケアがある。どのケアが良いかも知る必要があるが、ケア方針を話し合いその人に応じた介護計画を作成するが、グループホームはゆっくりゆっつかりの考え方が理想であり、型にはまったことは必要ないと思っているが出来る限り本人、家族、必要な関係者と話し合い、要望や要請、参考り助言を謙虚に受け取り利用者の為のよりよい介護計画を作る努力を常にすべきであるのが理念である介護支援専門員の適切な監理のもとだけではない。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	介護支援専門員のみでの適切な監理だけでなく、ホームの管理者やスタッフが、常に入居者の日常の状態を詳細に見守るなどの個人記録書き入れ、夜勤者と日勤者の申し送り、夜勤者の夜勤記録をスタッフは、日常常に把握する事を行っているために、介護の途中に入居者の身体や精神的な見直しをする必要があれば当然か見直しは必要としている。		
38 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	毎日全スタッフが個人日誌を記入し、その人のいろんな動きや、身体状況も分かりやすく記録に残し、スタッフ全員が全入居者のことを書き情報交換している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	「多機能性を生かす」意味が分からない。必要かも不明。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	地域の住民の方や警察の方・消防の方と連携を取り、徘徊時などのネットワーク作りをしている。本人の意向が認知症があって分かるはずがない。この質問はおかしい。		
41 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	実施していない。ホームはそのためケアマネが常勤している。		
42 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	夕張市役所の地域包括支援センターと常に協働し、密に連絡をしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	利用者をよく知る看護職員や介護スタッフで、ホームは月1回の医師が訪問受診の契約を夕張診療所としている。又、かかりつけの医師の歯科医もいるために、歯医者の一からの口腔ケア等の指導や入居者の歯の状況の訪問が常に受けられるようにしている。ご本人やご家族の希望に近づけるよう、適切な医療機関を安心して受診出来るよう支援している。		
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	当ホームは、長沼町立病院の医師が掛かり付け精神科の医師として、認知症の専門の事で直接会話し、薬など治療方針や対応法などを指導していただいている。信用出来る医師がいることで、当グループホームは最高の精神科の専門のグループホームとの自覚がある。		
45 看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	隔週に看護職員が訪問し、入居者の健康管理などをチェックしスタッフへ、入居者への健康管理へのアドバイスや医療活用へのアドバイスの支援を常に受けている。		
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	各医療機関と連携を取りながら、早期退院に向け対応をしているが、医療機関もむだに退院を伸ばすこともあり、ホームからの申し入れで退院をさせることもある。		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	早い段階から家族と相談している。ホームの理念として最期までであるために無理な「延命治療」はしない方針である。		
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	入居者がご高齢のため、終末期への心がける常に打ち合わせをしている。身寄りがない人は葬儀のこと、通夜の間もどこで等も考えて対応している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>49 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>本人が退去しない方が、ダメージが防止出来ることを我々は分かっているが、家族の自己都合で退去が何度もあり退所があるために、ダメージについては不明である。</p>		
<p>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
<p>50 プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>当然のこととしてスタッフへは指導している。個人情報保護し、プライバシーの確保に努めている。このプライバシーを損ねるような言葉かけの「意味が不明である。たとえば書くことである。」</p>		
<p>51 利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>当然である。このホームの入居者は十二分に自己主張はされるために利用者の思いを尊重し、自立支援に向けて最善を尽くしている。</p>		
<p>52 日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>当たり前であり、理念として一人ひとりのペースに合わせた生活を大切に、利用者の立場に立って物事を考えるよう努めている。</p>		
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>53 身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>理容、美容は高齢のためホームで行っているが強制ではない。おしゃれは本人に似合う洋服をスタッフのセンスで着せてもらっている。</p>		
<p>54 食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>食事は常に味に気を使っている。入居者は高齢であるが片付けは、入居者とスタッフが、一緒におこなっている。また食事が楽しみなものになるよう食欲をそそる音楽を取り入れている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	お酒は飲む人がいない。飲み物はスタッフが決めている。おやつは安くおいしいものが1日2回、平等なもの。本人たちは楽しみにおやつを食べられている。タバコは長崎県の大村のグループホーム7名の入居者の死者が出た火災がタバコが原因であるために、喫煙は厳しく禁止している。北海道を含め今の時代は女が特に夕張はスタッフの喫煙者が多いため、喫煙する者は隠れてでも吸う恐れもあり、入居者契約にも喫煙者への入居は断っている。ここにある本人が望むタバコ等と書かれてある事が、馬鹿げた非常識なものであると思う。楽しめるだけが介護ではないはず。		
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	一人ひとりの排泄パターンに合わせてトイレ誘導を行い、出来る限りオムツをはずせる時間を作っている。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	体調の確認を行い、2日に1回異常がなければ入浴を楽しんでいただいている。入居者においては仲のよい入居者と一緒に入浴を楽しまれている。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	一人ひとりの休息時間を把握し、安心した就寝が出来るよう心掛けている。犬と寝ている人もいる。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	ゆっくりゆったりな精神で、楽しみな日々を送れるよう一年行事を行っている。気分転換を図り毎日楽しく過ごせるよう支援している。春になれば花見・夏になれば花火・冬になれば雪見をしている。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	お金の所持はホームでは禁止しているが、安心のため少ない1000円程度は財布に入れてもらっている。が、高齢のためもう金銭の感覚のある人は少ない。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	散歩などを行い出来る限り戸外で過ごし、気分転換を行っている。昔より外に出ることを嫌うようになった。		
62 普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	年間行事を通して、普段行けない場所へ足を運び、季節感を感じてもらったり交流を図る場を作るようにと、出来るだけ企画しているが、高齢のため無理となってきた。		
63 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。	年賀状を書いてもらったり、ご家族にご本人から直接電話をかけられるよう支援している。(かけてこない家族へは、社長の江口から息子の名前でかけてもらって喜ばれている。)		
64 家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	24時間自由に出入りをしてもらい、気軽に訪問していただけるような雰囲気作りに努力している。		
(4)安心と安全を支える支援			
65 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	一度も身体的拘束はない。出来る限り研修などに参加してもらい、正しく理解してもらえるよう取り組んでいるが、官庁が参加者の多数ということで開設以来一度も参加出来ていない。		
66 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	夜のみ鍵をかけるが(夜も自由にしたいが、職員が女性のため怖がる)ホーム全体を解放し、自由に訪問が出来るようにしている。全ての職員に鍵をかけないよう指導している。常に犬も猫も出入りしている。そのために入居者の徘徊もあった。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>67 利用者の安全確認</p> <p>職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。</p>	<p>利用者が「夜息をしているか？していないか？」の夜勤記録も作って様子を細かく把握している。2時間おきの巡回である。日中も常に居場所の確認をしている。</p>		
<p>68 注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。</p>	<p>何もかも取り除くのではなく、危険性を考えながら置く場所などを考えている。</p>		
<p>69 事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。</p>	<p>火災については社長が消防団員のため、指導を厳しくしている。事故防止に努め、急変に適切に対応できるようマニュアルを通して年に2回訓練している。(スタッフでタバコを飲む人は退職してもらっている。)</p>		
<p>70 急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。</p>	<p>マニュアルはホーム内に常に掲示していて、定期的に事例などをあげ訓練を行い試験も行い、実際に事故があった際慌てることがないように訓練している。</p>		
<p>71 災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。</p>	<p>消防署が近隣にあり、夕張市役所や支所もあり、またホームの近隣には常に緊急の際の応援を人々に協力してもらおう事を、お願いしているために、昼夜を問わず避難や場所の確定も出来るよう対策している。</p>		
<p>72 リスク対応に関する家族との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。</p>	<p>一人ひとりのご家族とゆっくり相談し、その方に一番良いケアが出来るよう支援している。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。</p>	<p>毎日の体調の変化を申し送り、速やかに異変に気づき常に総括施設長に発信をして、対応の指示を受けて対応出来るようお互いに情報を伝達している。スタッフ同士も本人の様子を申し送り等に記録して情報を共有するようにしている。</p>	
74	<p>服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	<p>一人ひとりの薬入れを作成し、誤薬がないように行っている。服薬の作用についてもこまかく副作用等にも注意している。</p>	
75	<p>便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。</p>	<p>排便のコントロールを行い、一人ひとりにあった対応を行っている。(排便チェック表を作成し、下剤等の調節をしている。)</p>	
76	<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れやおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。</p>	<p>綿花などを使い口腔ケアを行っている。(歯科の往診をしてもらい虫歯などのチェックをしている。)</p>	
77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>食べる量などは、一人ひとりに合わせ提供している。一日に必要な水分チェック表を記入し、水分量の用紙に確認をしている。</p>	
78	<p>感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>	<p>外出から戻ってきたら、手洗いすることを指導し、感染予防の為トイレ使用後は手洗い、食事のときにはたまに消毒液を手などに吹きかけているが、インフルエンザはスタッフ・入居者の大半は行っている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	<p>食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>	食中毒予防の為、調理用具の衛生管理、台拭きなどの消毒を行い安全性に勤めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり				
80	<p>安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>	近隣の方や家族の方が親しみやすいよう、玄関周りに花や植物などを置いている。		
81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	季節感を採り入れられるように、季節の花などをリビングに飾ったりしている。		
82	<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	孤立した方がいなく声掛けを行い、入居者同士の交流を図るよう支援している。共有空間で当ホームは常に一緒に仲良くトラブルもないために、家族と一員と同じように過ごされている。独りになりたい人は自室に戻られる。		
83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	使い慣れた物などを持ち込んでもらい、居心地の良い雰囲気作りに心掛けている。仏壇も許可している。		
84	<p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のおよみがなく換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>	リビングの温度確認、夜間の入居者の居室に温度計を設置し温度確認をし、体温調節を行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>		
86	<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>		
87	<p>建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>		

. サービスの成果に関する項目		
	項目	取り組みの成果
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんど掴んでいない</p>
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<p>毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない</p>
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p>
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p>
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p>
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p>
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p>
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<p>ほぼ全ての家族 家族の2 / 3くらい 家族の1 / 3くらい ほとんどできていない</p>
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<p>ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない</p>

. サービスの成果に関する項目		
項目		取り組みの成果
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどいない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)

当ホームは弱年性認知症の方の入居者を受け入れ、日々の変化を細かく記録に残している。